

# 西中われら



学校の教育目標：自ら学ぶ 共に生きる 努力一輪 4本柱：授業、挨拶、掃除、合唱

## 葦 (ヨシ) と葦 (アシ)

校長 細井 孝治

学校は、生徒が社会で通用する力や感性を身に付けていく場であり、子ども達のよさや可能性を引き出し、伸ばし、鍛えていく場です。

令和 5 年度がスタートして半年が経ちました。「日常から自分を出し切る！」をキーワードに、日々の生活・学習に磨きをかける生徒たちの姿、願いや目標をもち、その実現に向けてねばり強く努力する姿など、本当によく頑張っています。9 月末には、3 年生が東京研修に行ってきました。中学校 3 年間、義務教育 9 年間で身に付けた力をきちんと発揮し、2 泊 3 日の研修を見事に自分たちの手で創り上げました。時間行動や挨拶などの基本的な生活習慣はもちろんのこと、自分たちで考え判断して行動する力、仲間や周りの人の思いを受け止め行動する力が、着実に身に付いてきていることを実感する研修となりました。また、自分の殻を破ろうと新たな事に挑戦・努力する生徒たちの姿も、学校生活の多くの場面で見る事ができてうれしく思いました。10 月 14 日に行われた中体連地区駅伝大会では、女子が優勝、男子が 4 位入賞というすばらしい結果を残しました。そうした一人ひとりの思い、努力をきちんと支え、喜びや達成感を掴ませていきたいと思う毎日です。

以前、先輩の先生が、講演会で次のような話を聞いてきたと話して下さったことがありました。「なるほど！」と強く得心した覚えがあったので紹介します。

父親から譲り受けた田んぼを 5 年間放っておいたら、こいつがいっぱい生えてきました。田んぼにとっては大変邪魔者で、アシ(悪し)と呼ばれているものです。しかし、このアシ、全く同じものでも川のふちに生えたと根をいっぱい張り、頑丈な堤防の役割をしたり、ひげ根と呼ばれる根には魚が卵を産みつけ、かっこうの住み家になったりして、川にとっては、大変役に立つため、ヨシ(良し)と呼ばれています。



辞書でアシと調べるとヨシとも言っており、ヨシで調べるとアシとも言っています。「事の良し悪し」という言葉も、ここから来ているのではないだろうかとも思います。

つまり、同じ物でも見方によって、ヨシにもなるし、アシにもなるということです。子どもも同じだと思います。どの子も良い面(素晴らしい力)をもっており、認められたいと思っています。私だってそうです。この年になっても、今でもそうです。「いい話だった」と言ってもらいたいし、「良かった」と認めてもらいたいのです。

人は誰でも、いくつになっても認められたいし、人から好かれたいものです。子ども達も、どんな横着な子でも勉強が分かりたいと思っているし、人に好きになってもらいたいと思っているし、認められたいと思っているのです。それを大人がうまく受け止めてやれば、子ども達は、すごい力を発揮するのです。

私たち大人は、子ども達の一面や物事の結果だけを捉えて「良し(よし)」「悪し(あし)」と判断してしまうことが多いように思います。中学生と言えどもまだまだ子どもで、当然のことながら失敗を重ね成長をしていきます。結果だけを見れば、「ほめられた事ではない」ということも多くありますが、子ども達が、「やるぞ！」と決意したその思い、くじけてしまったが頑張ろうとしたその過程を大事にしながら生徒たちを支え、鍛えていきたいと思っています。